

読み札	絵札	解説
<p>ら 来光を 拝みに登る 三峰山</p>		<p>明治の始め、利根郡は第 18、第 19 の二大区に分かれた。薄根川^{うすね}以北は第 19 大区となり、その総鎮守^{そうちんじゆ}（郷社）が三峰山^{みつみね}河内神社^{かわち}であった。三峰山（1123 仝）のお祭は「おくんち」と呼ばれ、近郷^よの参詣者^{さんけいしや}で賑わっていた。昭和 39 年（1964）東京オリンピックの頃^{ころ}からこの山^{おが}の上で初日の出^{ろうにやくなんによ}を拝む風習が始まり、今では老若男女の初登りで賑わっている。</p>
<p>り 竜宮の 民話伝わる 吹割の滝</p>		<p>吹割瀑^{ふきわればく}は利根町追貝^{おつかい}西方の片品川^{かしよう}本流^{けず}にある。河床^{かせい}を U 字に削る形^{かたち}で流れ落ちる全国^{きしやう}でも稀少^{たき}な滝^{ごうおん}で、轟音^{ごうおん}を立て、吸い込まれる^すように流れ落ちる様子^{ようす}から、東洋^{とうやう}のナイアガラとも呼ばれる。周囲^{しゅうい}は雄大^{ゆうだい}で独特^{どくとく}の溪谷美^{けいこくび}に彩^{いろど}られ、千畳敷^{せんじやうじき}と呼ばれる河床^{おかけつ}は、甌穴^{おうけつ}が数多く見られる。滝つぼには、神秘的な竜宮^{りゅうぐう}伝説がある。</p> <p>昭和 11 年（1936）国指定天然記念物及び名勝</p>
<p>る 留守の城 守りとおした 小松姫</p>		<p>小松姫^{ひめ}は、本多忠勝^{ほんだただかつ}の娘^{むすめ}で、徳川家康^{とくがわ}の養女^{やしや}として天正 17 年（1589）17 歳で真田信幸^{まいたのぶゆき}（信之^{のぶゆき}）夫人^{せき}となった。関ヶ原^{せきがはら}の戦い^{たたか}で家康^{けい}方^{かた}となった信幸^{のぶゆき}の出陣中^{しゅつじん}、豊臣方^{とよとみ}の義父昌幸^{ぎふまさゆき}・義弟信繁^{ぎていのぶしげ}（幸村^{ゆきむら}）の沼田城^{ぬまたじやう}入城^{こぼ}を拒んだ^{いつわ}という逸話^{げんわ}がある。元和 6 年（1620）病^{びやう}を患^{わづら}い帰郷^{ききやう}の途上^{とじやう}、中山道鴻巣^{なかせんどうこうのす}において 48 歳^{さい}で亡^なくなった。信幸^{のぶゆき}は「わが家の燈火^{ともしび}消ゆ^{なげ}」と嘆^{なげ}いたという。大蓮院^{だいれんいん}と追号^か。鍛冶町正覚寺^{かじまち}に廟^{びやう}と墓^{はか}がある。</p>
<p>れ 歴史の書 加沢記残した 平次左衛門</p>		<p>加沢平次左衛門^{かざわへいじ}は真田伊賀守^{まいたいがのみ}に仕えた。後に、川田^{いんせい}に隠棲^{いんせい}した。その手記^{てんしやう}を「加沢記^{かざわき}」という。「加沢記^{かざわき}」は、武田氏^{ぶしやう}の一武将^{いっしやう}であった真田氏^{まいた}を中心に越後^{えちご}の上杉氏^{うえすぎ}、関東^{かうとう}の北条氏^{ほしやう}との抗争^{かうそう}が記され、戦国時代^{せんしやう}初期^{きうき}から天正 18 年（1590）までの利根沼田^{かがづま}、吾妻^{あがつま}地域の歴史^{いし}を調べる重要な史料^{しりやう}として評価^{ひやう}されている。元禄 5 年（1692）65 歳^{さい}で亡^なくなり、墓^{はか}は川田城址^{うら}内薬師堂^{ぼち}裏^{うら}の墓地^{ぼち}にある。</p>
<p>る 六文銭 信吉ねむる 天桂寺</p>		<p>沼田城^{じやうしゆ}主^{のぶ}真田信吉^{まいたのぶよし}は大坂^{おさか}の陣^{じん}に際^{さい}し、六文銭^{ろくもんせん}の旗印^{かか}を掲げ武功^{ぶこう}を立てる。その後^{のち}、川場用水^{かわばたみづ}を引いて城下町^{じやうかまち}の基礎^{きそ}を固め、横塚新田^{よこづか}を拓^{ひら}き、城鐘^{じやうしやう}を鑄^いるなど治政^{ちせい}に尽くした。寛永 11 年（1634）11 月 28 日江戸屋敷^{えどやしき}において 40 歳^{さい}で亡^なくなった。迦葉山^{かしょうざん}で茶毘^{だび}に付され、材木町天桂寺^{てんけいじ}に葬^{ほうむ}られた。高さ約 3 仝^仝、六文銭^{ろくもんせん}を刻^{きざ}んだ大きな宝篋印塔^{ほうきやういんとう}形式^{けいしき}の墓^{はか}がある。</p> <p>昭和 51 年（1976）市指定重要文化財</p>